

賛助会員

有限会社浜野顕微鏡 (〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-18)

神協産業株式会社 (〒742-1502 山口県熊毛郡田布施町波野 962-1)

理研食品株式会社 (〒985-8540 宮城県多賀城市宮内 2-5-60)

共和コンクリート工業株式会社 (〒060-0808 北海道札幌市北区北 8 条西 3 丁目 28 札幌エルプラザ 11 階)

(株) 環境総合テクノス (〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町 1-3-5)

(株) 日本港湾コンサルタント (〒140-0031 東京都品川区西五反田 8 丁目 3 番 6 号)

皆様のご投稿をお待ちしています

和文誌「藻類」は会員の皆様の原稿で成り立っている雑誌です。原著論文のみならず、総説やその他の報文（記事等）のご投稿もお待ちしています。ご投稿に際しましては、最新の投稿案内（2017年3月30日改正：第67巻第2号 p.113 に掲載）をご覧ください。なお、総会資料にもあります様に、投稿規定は近く改定する予定です。それに伴い、カラーページ、別刷、超過ページの料金を値下げし、執筆要綱・投稿票も作成中ですので、しばらくお待ち下さい。（編）

編集後記

本号より山梨大学の芹澤がメインで編集した和文誌「藻類」をお届けします。原稿1つ1つをインデザインというソフトに流し込んで手作業で版を組んでいくという作業は気が遠くなるもので、歴代の委員長の努力に頭が下がります。本年は鹿児島大会の中止にはじまり、オリンピックも1年延期、大学における講義や実験までオンライン化となり、対応に追われている方も多いことと推察します。私も初等理科実験とい

う小学校の先生のための理科実験の初回を138名相手にオンラインで行いましたが、顔を見ないで説明を続けるのは、まるで壁に向かって話しているようで、虚しさや違和感がありました。会員の皆様におかれましては飲みニュケーションの機会も減り、なかなか元の生活に戻れず、フラストレーションもかなり溜まっていることと思います。その鬱憤を是非、和文誌「藻類」への投稿という形で、晴らしてみませんか！？
(芹澤如比古)

表紙 小坂川支流のチャイロカワモズク *Sheathia arcuata*

制作者：岸大弼（岐阜県水産研究所 下呂支所）

作成者より：小坂川支流（岐阜県下呂市小坂町）では森林内を流れる一部の区間のみ本種が生育（本誌73ページ参照）。

新日本海藻誌

—日本産海藻類総覧—

吉田 忠生 著 B5判・1248頁・定価(本体46,000円+税)

岡村金太郎著「日本海藻誌」以来、実に60余年ぶりに刊行された海藻学の決定版。斯界の権威が日本の海藻を網羅して書き下ろした歴史的大著。綱、目、科、属、種などの分類階級ごとに、形質の特徴、および他との比較などを詳細に記述。また「綱から目へ、目から科へ・・・」わかりやすい検索表が付く。各種ごとに極めて詳細、細緻な文献リストが付される。さらに種ごとにタイプ産地、タイプ標本、分布地域名が示される。学名、和名の由来、生育地の特徴など、関連する話題も豊富。

有用海藻誌

海藻の資源開発と利用に向けて

大野 正夫 編著 B5判・596頁・定価(本体20,000円+税)

本書は「生物学編」、「利用編」、「機能性成分編」の3編から構成されどの項目からも必要なところから読むことができる。生物学編は、利用分野ごとに分けて、種名の査定に必要な形態、生活史、分布生態を記述。これらの水産、食用などへの利用や産業的背景、利用の歴史についても詳述する。利用編は、海藻産業の歴史的背景、加工技術から化学構造、品質などにふれ、将来への展望を示す。機能性成分編では、あまり知られていない海藻の成分とその利用範囲を幅広く記述。

淡水藻類

—淡水産藻類属総覧—

山岸 高旺 著 B5判・1444頁・定価(本体50,000円+税)

本書は淡水における藻類、約1500属を収録した淡水藻類の属の総覧である。配列は淡水藻類を12分類群に分けるBourrellyの分類系を採った。これに加え異名とされるもの、関連するものをさらに約800属所収する。60年に及ぶ著者の淡水藻研究の集大成として淡水藻類の全体像に迫る大著。本文は、それぞれの分類群の「細胞・藻体」「生殖・生活史」「分類・分類表」を示した後、それぞれの属の記載が中心となり線画による基本的な図版を示しながら、属の分類基準とされる形態形質、生殖形質、生育状況を述べる。また類似属との関係や産状など特記事項も詳細に記す。

小林弘珪藻図鑑

H.Kobayasi's Atlas of Japanese Diatoms based on electron microscopy

小林 弘・出井雅彦・真山茂樹・南雲 保・長田敬五 著 B5判・596頁・定価(本体34,000円+税)

本書は、珪藻の分類学の成書として長く刊行が待たれていた待望の書であり、斯界の第一人者、故小林弘博士の名を冠するものである。プレートとその解説をはじめ、特殊な用語が多く使われる珪藻の殻構造の解説を電顕写真や線画を添えて分かりやすく示す。分類体系には最新の研究成果を盛り込む。用語の英語、日本語、ラテン語の一覧表や、学名と和名の対照表などを付し読者の便宜を図った。

淡水珪藻生態図鑑

群集解析に基づく汚濁指数DAI_{po}、pH耐性能

渡辺仁治 編著 浅井一視・大塚泰介・辻 彰洋・伯耆晶子 著 B5判・784頁・定価(本体33,000円+税)

日本のみならず世界各地から約1500のサンプルを採集、膨大なサンプルの生態情報を処理検討し、約1000種の珪藻についてその結果を分かり易くまとめる。生態情報の妥当性を期するため、すべてのサンプルを統一条件下で採集し、好清水か好汚濁か=きれいな水を好むのか、汚れた水を好むのか等を判断する環境指標としての珪藻群集の適性を、多くの図版で具体的に示す。

日本淡水化石珪藻図説

—関連現生種を含む—

田中 宏之 著 B5判・612頁・定価(本体33,000円+税)

日本の淡水成堆積物から見出された化石珪藻の図説であり236分類群を収録する(一部に汽水種、および現生の淡水珪藻も収録)。本文は各分類群の精密な電顕写真、和英解説、和英の図版キャプションから成り解説の文献欄には原記載、または標記の所属に組み合わせを行った文献、殻の形態、種の特徴等を理解する上で参考となり入手しやすい文献を示す。用語は基本的にRoss *et al.*(1979)、小林弘珪藻図鑑(小林ら2006)で示されたものを使用した。

珪藻 *Navicula* 図鑑

福島 博・木村 努 共著 B5判・596頁・定価(本体33,000円+税)

環境指針としての珪藻の中でも多数を占めることから、同定が比較的煩雑で難しい*Navicula*属について、殻長、殻幅、条線密度、点紋密度等を計測し、同定に役立つ情報として計測数、計測値、あるいは指数化した値を示す。丁寧な解説、写真を付し、環境、水処理分野の関係者、藻類関係者にとって有用・実用の書である。